

ソーシャルワーク演習

[演習] 第1学年 後期 必修 1単位

《担当者名》 片山 寛信 (katayama@hoku-iryu-u.ac.jp) 志水 幸 奥田 かおり 高野 和美 (非)

【概要】

相談援助技術を学ぶ最初の演習として、以降の専門的技術を習得するための基礎力を身につけることを目的とする。20名以下のグループでの講義・演習を中心とした授業を通して、自己理解(自己覚知)及び他者理解、基本的なコミュニケーション技術、面接技術を身につける。

【学修目標】

1. 他者との関わりを通して自己理解 (自己覚知)を深める。
2. 場面や相手に相応しい表現や対応ができるよう基本的なコミュニケーション技術を習得する。
3. 基本的な面接技術を学び、演習を通して習得を目指す。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション 自己理解と他者理解	・演習の目的・内容・評価方法などが説明できる ・自己理解と他者理解の必要性を説明できる	志水 幸・奥田・片山・高野 (非)
2	人間の平等と尊厳・個性の尊重	・人間の平等と尊厳を尊ぶ必要性を説明できる ・人間の個性を尊ぶ必要性を説明できる	志水 幸・奥田・片山・高野 (非)
3	基本的コミュニケーション技術	・対人援助におけるコミュニケーション技術の必要性について説明できる(言語的技術・非言語技術を用いたコミュニケーション)	志水 幸・奥田・片山・高野 (非)
4	グループダイナミクスの活用	・グループワークの実践を通じて、グループワークの構成について理解する ・グループワークを用いて、自分や相手の価値観を知る	志水 幸・奥田・片山・高野 (非)
5	基本的な面接技術の習得 (面接の構造化)	・相談援助における面接の意義を説明できる ・マイクロ技法の階層表を説明できる ・面接に適した場の設定ができる	志水 幸・奥田・片山・高野 (非)
6	基本的な面接技術の習得 (面接の構造化)	・面接に適したかかわり行動ができる ・クライアントを観察することができる ・面接技術:「はげまし」を用いた面接ができる	志水 幸・奥田・片山・高野 (非)
7	基本的な面接技術の習得 (面接の構造化)	・面接技術:「いいかえ」「質問技法」を用いた面接ができる	志水 幸・奥田・片山・高野 (非)
8	基本的な面接技術の習得 (面接の構造化)	・面接技術:「感情の反映」「要約」を用いた面接ができる	志水 幸・奥田・片山・高野 (非)
9	基本的な面接技術の習得 【全体講義】 (面接の構造化)	・生活場面面接について説明ができる ・様々なツールを活用した面接を知る(電話)	志水 幸・奥田・片山・高野 (非) 渡辺啓太(特別講師)
10	基本的な面接技術の習得	・生活場面面接のロールプレイができる(外部講師からの提供事例を用いたロールプレイ) ・e-mailやメッセージアプリを使用した相談を知る	志水 幸・奥田・片山・高野 (非)
11	ソーシャルワークの展開過程 【全体講義】	・構造化面接の事例を用いて、ソーシャルワークの展開過程の実践を知る	志水 幸・奥田・片山・高野 (非) 下倉賢士(特別講師)
12	ソーシャルワークの展開過程	・ソーシャルワークの展開過程の要点が説明できる ・ソーシャルワークの展開過程における、構造化面接のロールプレイができる(外部講師からの提供事例を用いたロールプレイ)	志水 幸・奥田・片山・高野 (非)
13	基本的な面接技術の実践	・模擬面接試験の評価ポイントを説明できる ・意図的に面接技術を活用することができる	志水 幸・奥田・片山・高野 (非)
14	基本的な面接技術の実践	・模擬的に設定した相談援助場面において、意図的に	志水 幸・奥田・片山・

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	(学生による模擬面接)	面接技術を活用し面接を展開することができる	高野(非)
15	まとめ プレゼンテーション技術	・ソーシャルワーク演習 における学びについて、個人プレゼンテーションを行う(演習全体を振り返り到達状況を自己評価・演習 に向けた自己課題の列挙など) ・授業アンケート	志水 幸・奥田・片山・高野(非)

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート(50%)、模擬面接(10%)、グループにおける主体的参加度(意欲・姿勢)(40%)

【教科書】

岩間伸之(2008)『対人援助のための相談面接技術 逐語で学ぶ21の技法』中央法規出版

【参考書】

川村隆彦(2002)『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』中央法規

ソーシャルワーク演習教材開発研究会編(2013)『ソーシャルワーク演習ワークブック(第2版)』(株)みらい

【備考】

- ・基本的に20名以下のグループで学習する。
- ・各テーマの終了時にレポート・実技試験により学習到達度を評価する。
- ・演習という授業の性格上、個人の遅刻が他の学生の学習の妨げとなるため、遅刻は欠席扱いとする。
- ・欠席者には、別途課題を課すことがある。

この科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得のための「ソーシャルワーク演習」に該当する。

この科目は、介護福祉士国家試験受験資格取得のための領域「人間と社会」の教育内容「人間の理解」における「人間関係とコミュニケーション」に該当する。

【学修の準備】

- ・教科書や配布資料をもとに事前学習を行うこと。(30分)
- ・事前、事後的に、学生同士でロールプレイを行うことで、面接技術の習得に取り組むこと。(30分)

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2、3

【実務経験】

片山 寛信(社会福祉士) 奥田 かおり(ソーシャルワーカー) 高野 和美(非)(社会福祉士・精神保健福祉士)

【実務経験を活かした教育内容】

演習内容について、各教員の福祉施設や、相談室、医療機関におけるソーシャルワークの経験を生かした、実践的教育を行なう。